

[掲載紙] 上毛新聞「点描ぐんま経済 日銀支店長 見聞録」

[掲載日] 2016年10月28日

[テーマ] 旅先で博物館巡り—想像力かき立てる魅力—

祖父が罪作りなことに「勝てば官軍」なんて言葉を教えるものだから、まだ小学生であった私は、歴史は大河ドラマと同様に作り物と思い込んだ。中学に入るやいなや「中二病」（思春期に特徴的な、過剰な自意識やそれに基づく振る舞いを擲<sup>お</sup>擲<sup>ゆ</sup>する語）にかかった私は、「歴史の教科書に載っていることは当時の支配者が自らの統治を正当化したもので学ぶに値しない」とまで言い切った。

高1か高2の時の日本史の先生は熱心な方であったが、それがゆえに授業がなかなか進まないのが問題だった。2学期が終わっても平安時代は終わらず、3学期も終盤になって「江戸時代以降は自分で学ぶこと！」とおっしゃって、受験科目として消去法的に日本史を選ぼうとしていた我々を慌てさせた。

その先生がみどり市にある岩宿遺跡の話を詳しくされていたことを思い出す。在野の考古学者であった相沢忠洋氏の遺跡発見により、縄文時代以前の日本列島に人類は居住していなかったという定説が覆され、わが国の歴史研究の新しい扉が開かれたことを、数回の授業にわたって説明してくださった。

大学受験後も書物に基づく歴史に対する苦手意識は消えなかったが、先生の熱弁をきっかけに旧石器時代以前の時代への関心は強まり、いつの間にか旅先で博物館を訪ねるのが習慣になった。遺跡発掘により明らかになっていく太古の人類の歴史や人類発生以前の歴史にはもとより想像力をかき立てる魅力があるが、工夫された博物館の展示は我々来館者の興味をさらに引き出してくれるのであった。

長男が生まれて最初に夢中になったのは恐竜のおもちゃ。私もそうであつたらしい。子どもは自然と、大きくて強くてかっこいい恐竜に憧れる。そうした恐竜の巨大な標本が中央に鎮座する博物館は大人でも子どもでも楽しめる数少ない場所の一つである。女性は理解してくれないかもしれないが。

開館20周年を迎えた富岡市の県立自然史博物館では11月27日まで「超肉食恐竜ティラノサウルス」を特集した企画展を開催している。前回出掛けて3カ月しかたっていないが、開催中にまた出掛けてみる予定である。妻を説得して今度は神流町の恐竜センターにも足を延ばし化石発掘を体験してみたい。

▼タイムマシンに乗れるならどの時代に行ってみたいですか？

恐竜がいた時代	34.7%
江戸時代	15.0%
未来	13.7%
戦国時代	8.7%
パパ・ママがこどもの時代	6.0%

(注) 小学1～6年生の男子300人。保護者経由のアンケート。2011年11～12月実施。

(出所) 株式会社バンダイ「バンダイこどもアンケートレポート」

〔 日本銀行前橋支店長  
    神山 一成 〕